



高砂香料工業株式会社

# 2016年3月期 決算説明会

2016年5月24日

# 本日の内容



## I. 2016年3月期 通期業績

取締役常務執行役員  
笠松 弘典

## II. 2017年3月期 通期業績予想

代表取締役社長  
柘村 聡

## III. ファインケミカル事業

取締役常務執行役員  
山形 達哉

## IV. 設備投資ハイライト

取締役常務執行役員  
山形 達哉



# I . 2016年3月期 通期業績



# 2016年3月期 通期業績

[単位：百万円]

	2015/3	2016/3	対前期比	
			増減額	%
売上高	131,653	141,660	10,007	7.6%
売上総利益	40,616	45,278	4,662	11.5%
売上総利益率	30.9%	32.0%	-	-
販売管理費	37,471	38,642	1,171	3.1%
営業利益	3,144	6,635	3,491	111.0%
経常利益	3,893	6,036	2,143	55.0%
特別損益	1,095	852	△243	△22.2%
当期純利益	2,549	4,880	2,331	91.4%

期中平均為替レート  
 USD : 106円  
 EUR : 140円

121円  
 134円

## 売上高

**前期比7.6%増の1,416億円**

日本：飲料用フレーバーが堅調に推移

米州：フレグランス大手顧客からの新規採用が増加、為替も寄与

欧州：フレーバー堅調、フレグランスは微減

アジア：中国は微増、東南アジアはフレグランスが堅調

## 営業利益

**前期比111%増の66億円**

日本：ファインケミカルにおいて高付加価値の医薬中間体が伸長、  
販売管理費も減少

米州：フレグランスの回復、米国子会社の販売管理費減少

アジア：東南アジアでのフレグランスの回復

# 2016年3月期 通期業績

[単位：百万円]

	2015/3	2016/3	対前期比	
			増減額	%
売上高	131,653	141,660	10,007	7.6%
売上総利益	40,616	45,278	4,662	11.5%
売上総利益率	30.9%	32.0%	-	-
販売管理費	37,471	38,642	1,171	3.1%
営業利益	3,144	6,635	3,491	111.0%
経常利益	3,893	6,036	2,143	55.0%
特別損益	1,095	852	△243	△22.2%
当期純利益	2,549	4,880	2,331	91.4%

## 売上高

前期比100億円増収  
うち47億円が為替の影響  
アジア、米州、日本で増収

## 営業利益

日本におけるFCが利益貢献  
米州におけるFRの回復、  
販売管理費減

## 特別損益

シンガポール子会社で  
FL旧工場売却益8億円を計上

期中平均為替レート

USD : 106円

EUR : 140円

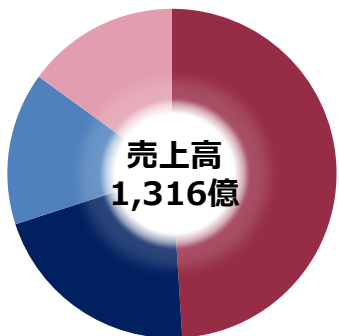
**121円**

**134円**

※ 数値は全て円建て表記（億円）

2015/3期

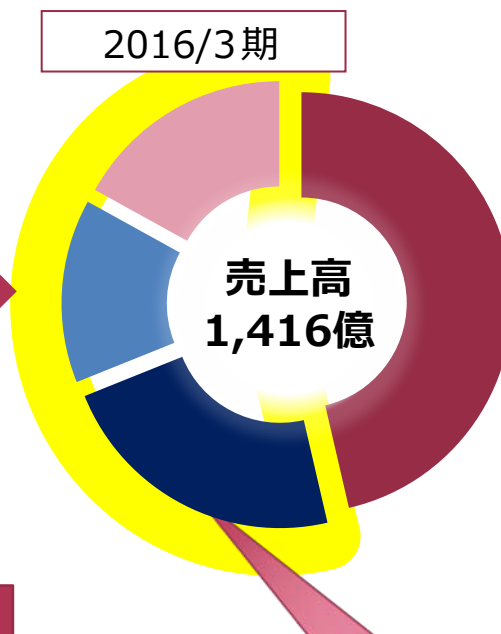
■ 日本	643億円	49%
■ 米州	270億円	21%
■ 欧州	201億円	15%
■ アジア	201億円	15%



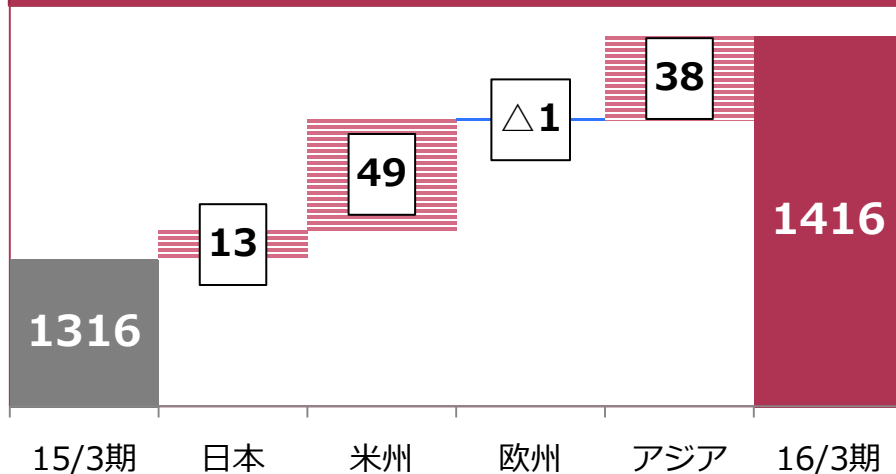
100億増収

2016/3期

■ 日本	656億円	46%
■ 米州	319億円	23%
■ 欧州	199億円	14%
■ アジア	240億円	17%

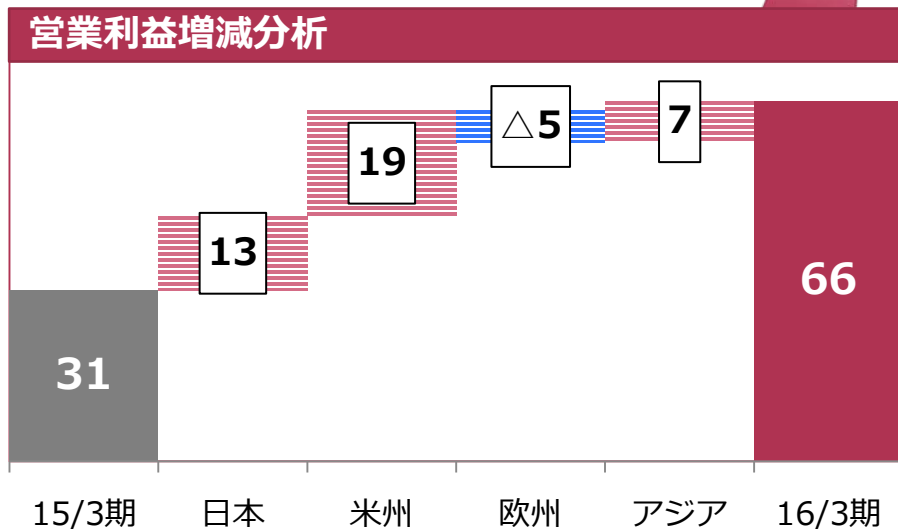
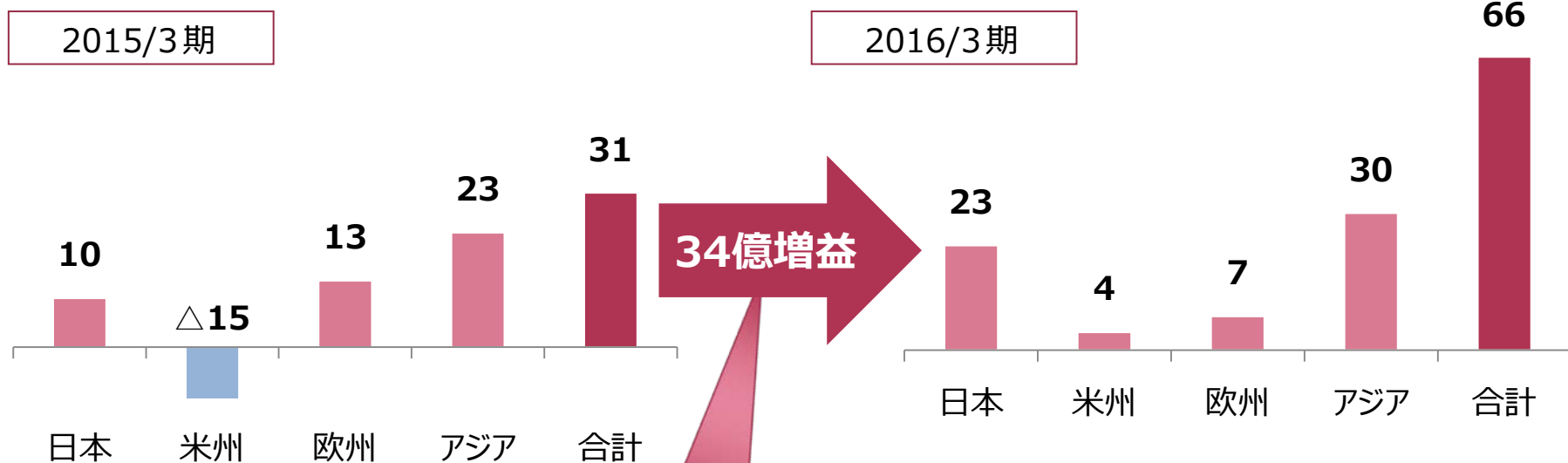


## 売上高増減分析



海外売上比率はアジアを中心に年々伸長し、前期51%から54%に上昇

※ 数値は全て円建て表記（億円）



米州が大きく改善  
アジアは営業利益の45%を占める収益源



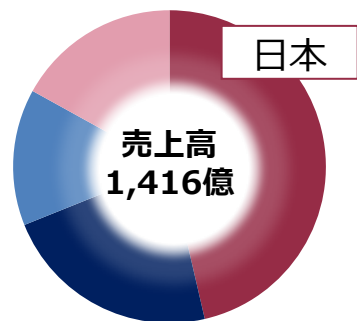
地域別

～日本、米州、欧州、アジア～



日本

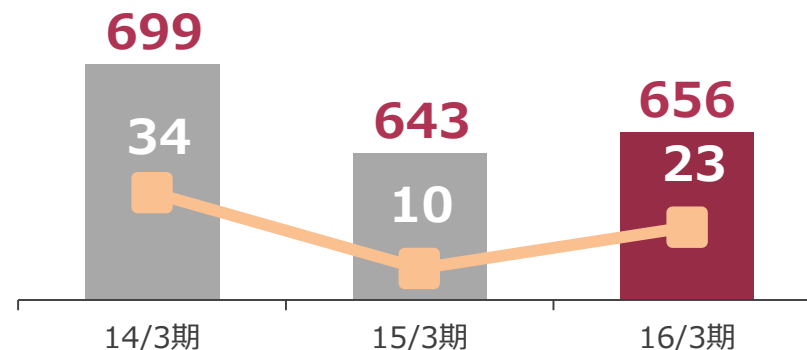
※ 数値は全て円建て表記（億円）



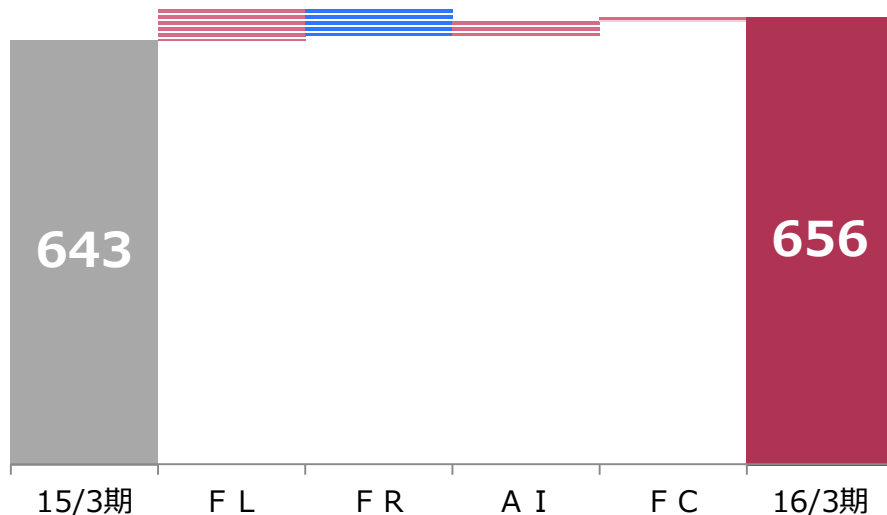
■ 日本	656億円	46%
■ 米州	319億円	23%
■ 欧州	199億円	14%
■ アジア	240億円	17%

売上高・営業利益 3カ年推移

■ 売上高、— 営業利益



売上高増減分析



増減要因

【売上】

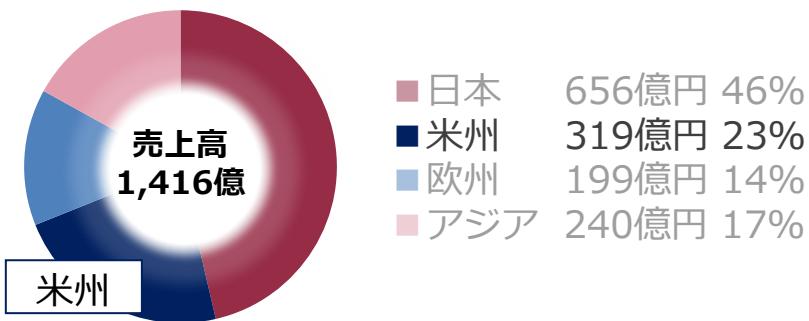
+ 飲料用FLが好調

【営業利益】

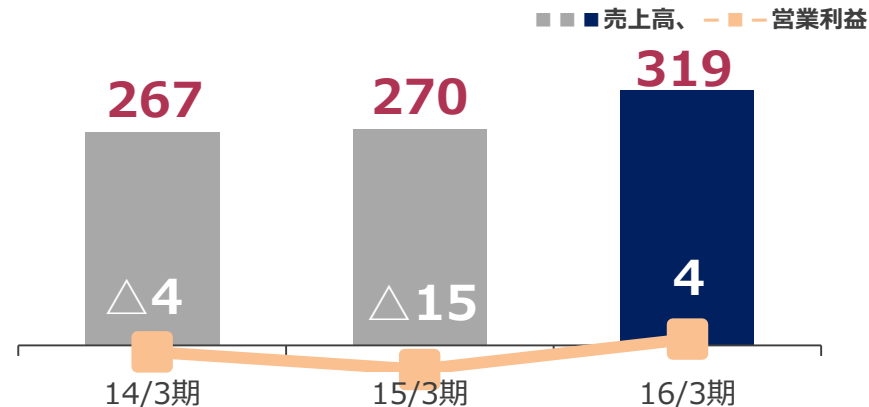
- + FCにおいて、高付加価値の抗ウィルス薬中间体ビジネスが伸長
- + 珈琲ビジネスの回復
- + 燃料費減少

米州

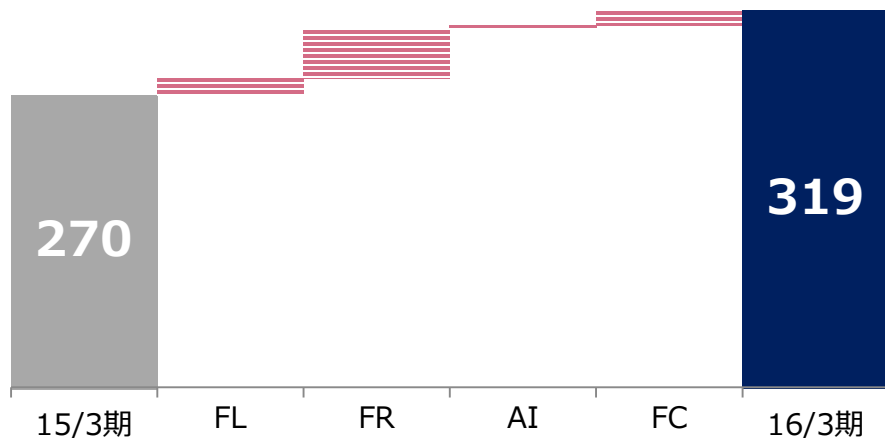
※ 数値は全て円建て表記（億円）



売上高・営業利益 3カ年推移



売上高増減分析



増減要因

【売上】

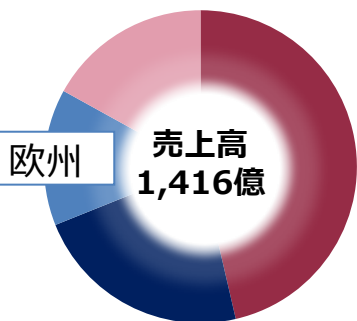
- + FRマルチナショナル大手顧客向け販売好調
- + FC医薬中間体が伸長

【営業利益】

- + FR増収に伴う収益性の改善
- + 米国子会社のFR工場の二重稼働の解消
- + 米国子会社販売管理費削減

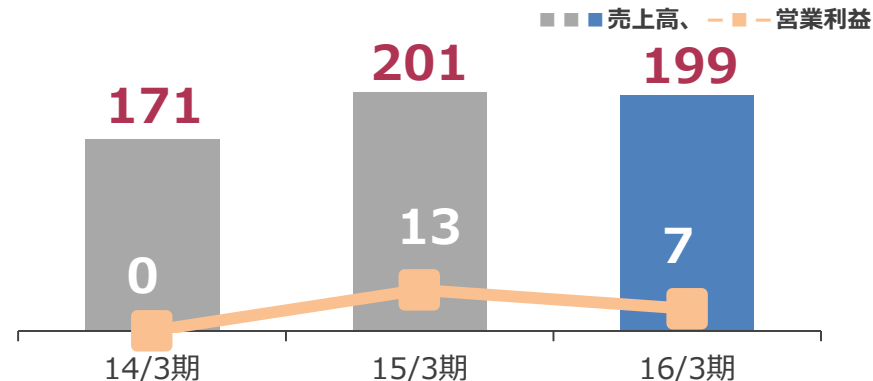
欧州

※ 数値は全て円建て表記（億円）

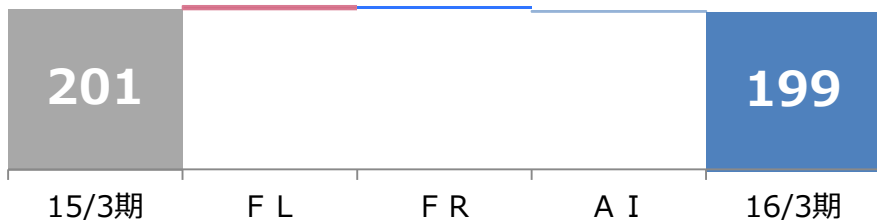


■ 日本	656億円	46%
■ 米州	319億円	23%
■ 欧州	199億円	14%
■ アジア	240億円	17%

売上高・営業利益 3カ年推移



売上高増減分析



増減要因

【売上】

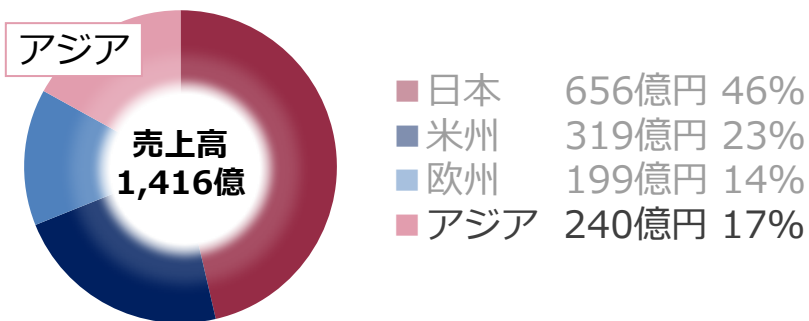
- + FL乳製品、菓子用香料が好調
- ▲ FRファインフレグランス減少

【営業利益】

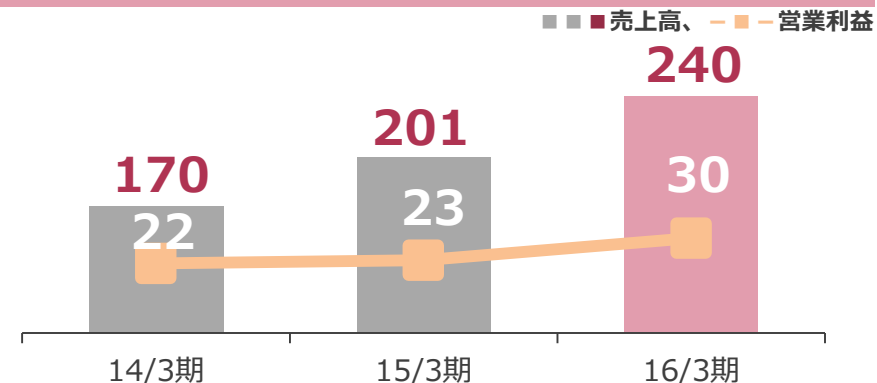
- ▲ ファインフレグランス減少に伴う利益率低下
- ▲ FL天然原料価格上昇およびユーロ安によるコスト増

アジア

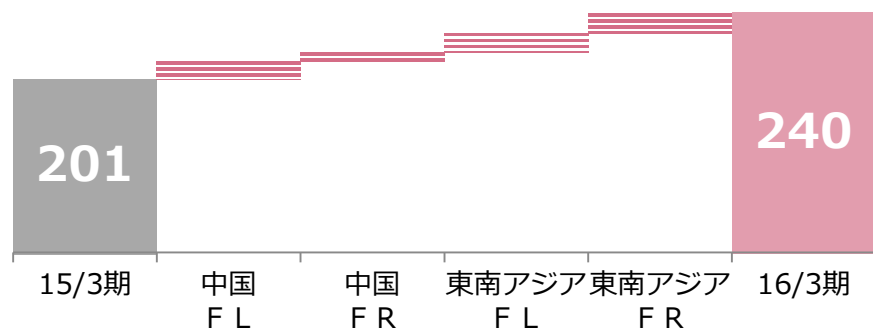
※ 数値は全て円建て表記（億円）



売上高・営業利益 3カ年推移



売上高増減分析



増減要因

【売上】

- + 中国で飲料用FLが堅調
- + 東南アジアでハウスホールド用FRが好調

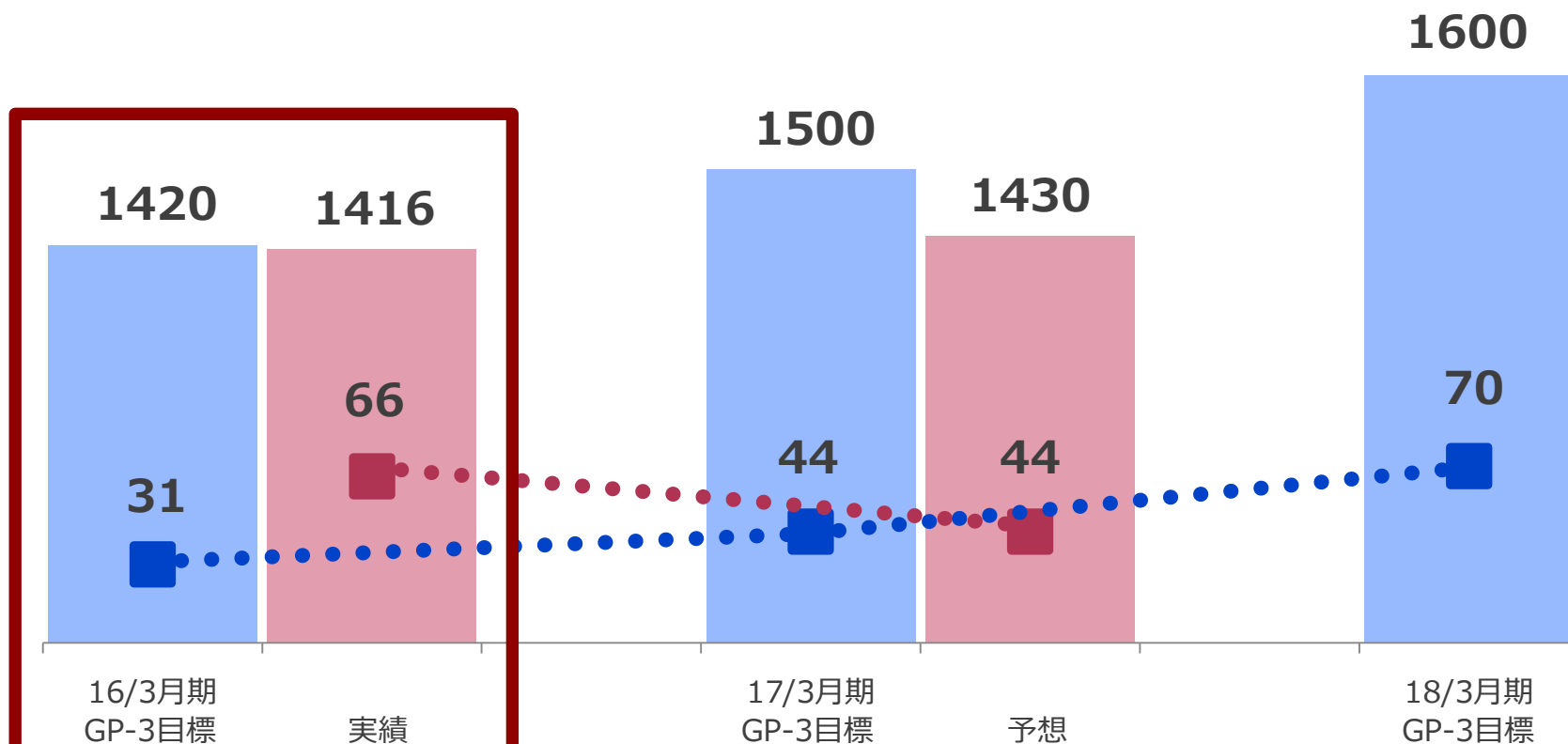
【営業利益】

- + 東南アジアで原油価格下落による原料費低下
- + シンガポール子会社で新工場への製造移管完了によるコスト減

※ 数値は全て円建て表記（億円）

## 業績予想

- 売上高（GP-3目標）
- 売上高（実績、予想）
- 営業利益（GP-3目標）
- 営業利益（実績、予想）



## Ⅱ. 2017年3月期 通期業績予想



# 2017年3月期 通期業績予想

[単位：百万円]

	2016/3 実績	2017/3 予想
売上高	141,660	143,000
営業利益	6,635	4,400
経常利益	6,036	4,300
当期純利益	4,880	2,700

期中平均為替レート

USD :	121円	115円
EUR :	134円	127円

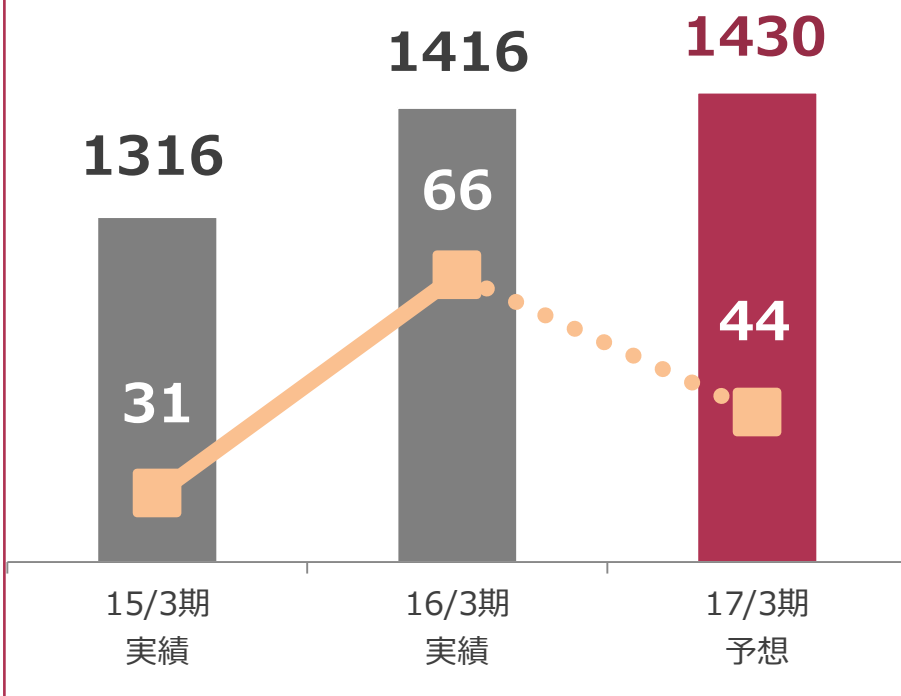
## 2017/3 通期予想ハイライト

- 増収減益
- 日本、ドイツ、東南アジアでの投資による減価償却費増加
- 為替の影響

## 業績推移・予想

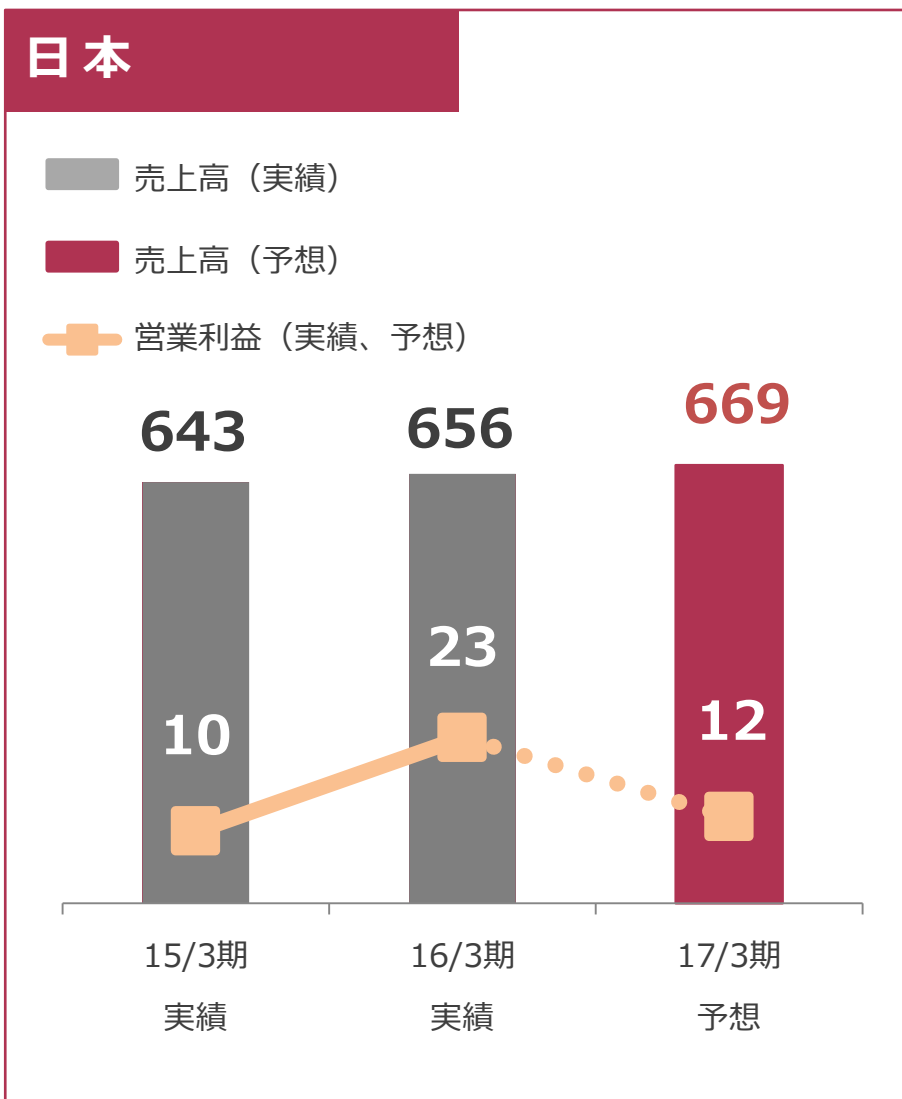
[単位：億円]

■ 売上高（実績）  
■ 売上高（予想）  
— 営業利益（実績、予想）





※ 数値は全て円建て表記（億円）



### 増減要因

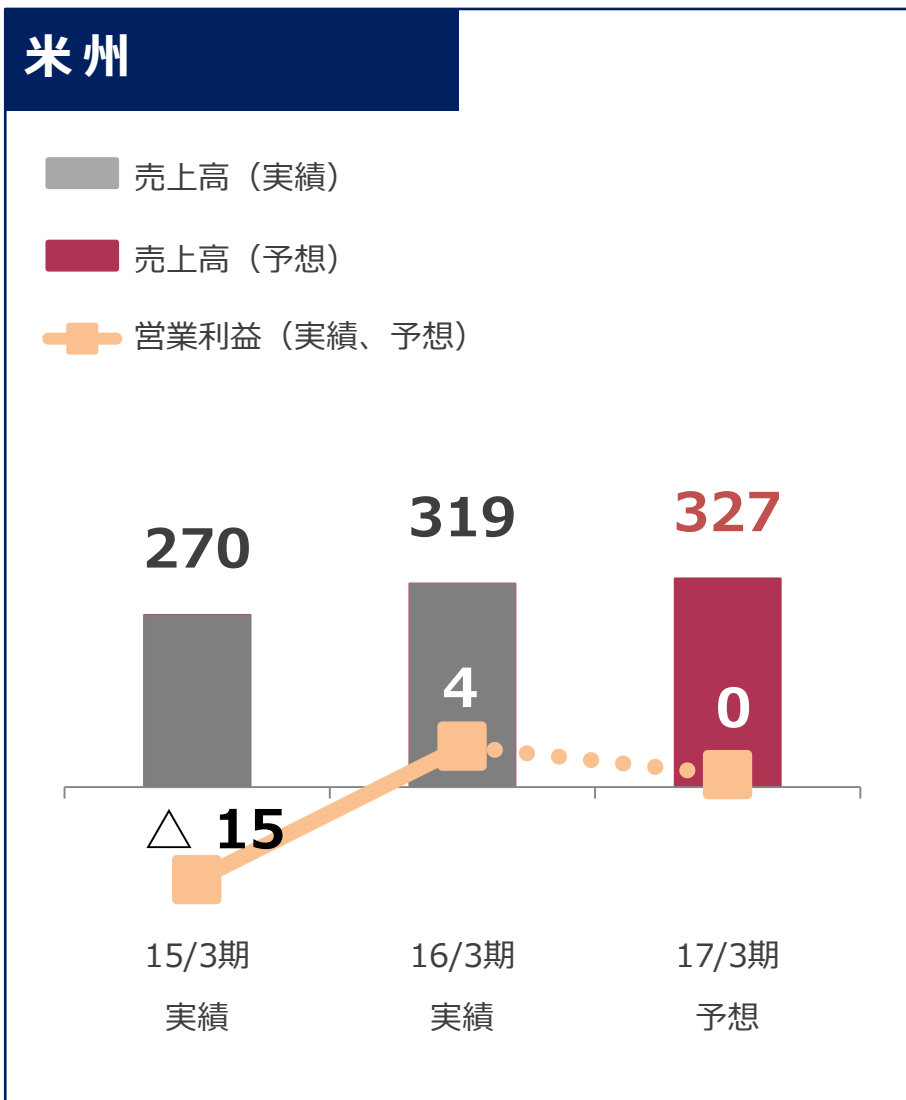
#### 【売上】

+ FL, FRが伸長

#### 【営業利益】

- ▲ 三原工場の減価償却費増加
- ▲ 販売管理費の増加

※ 数値は全て円建て表記（億円）



### 増減要因

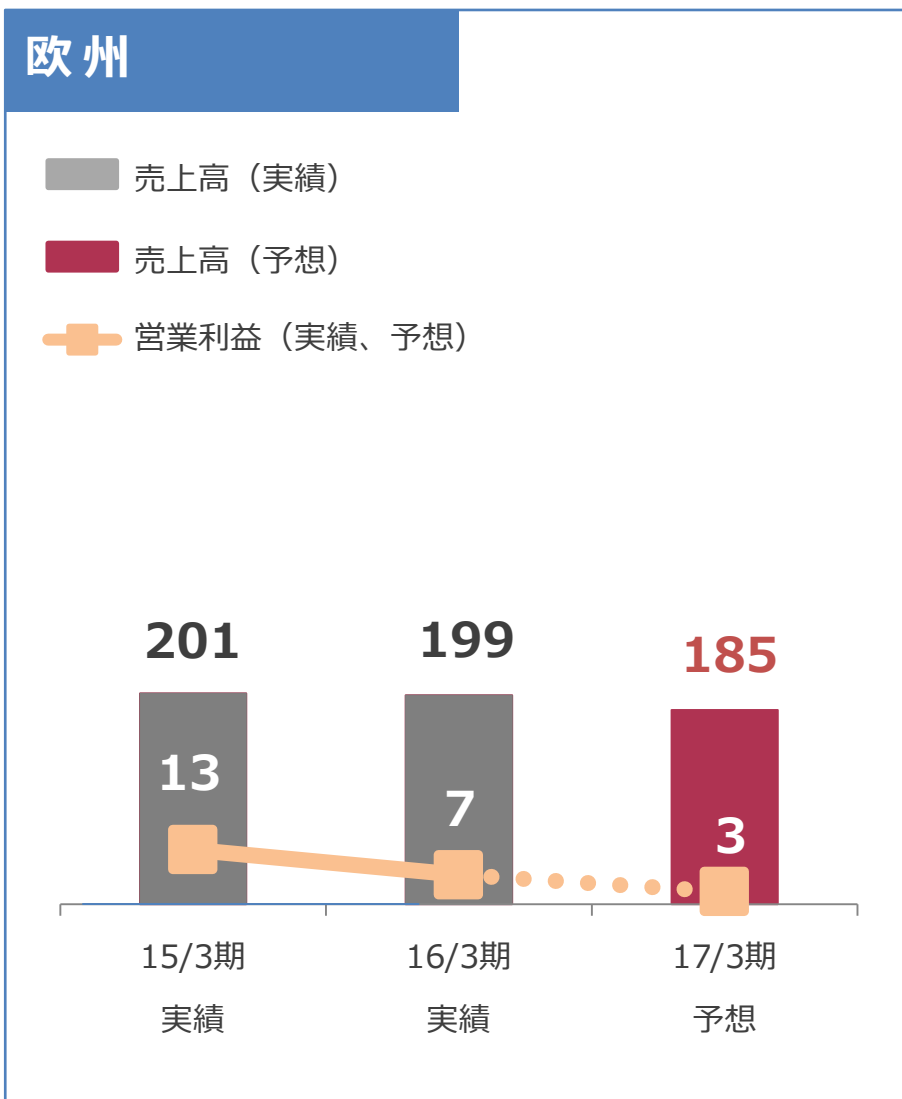
【売上】

+ 米国子会社は販売好調を維持

【営業利益】

▲ ブラジル子会社の回復の遅れ

※ 数値は全て円建て表記（億円）



## 増減要因

### 【売上】

- ▲ 為替の影響による減収

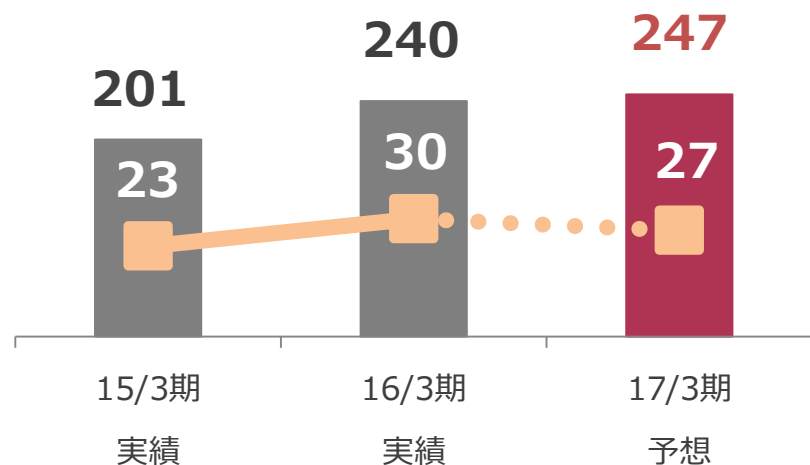
### 【営業利益】

- ▲ ドイツ子会社工場拡張に伴う減価償却費増加、人員強化によるコスト増加
- ▲ FLにおいて天然原料の価格上昇

※ 数値は全て円建て表記（億円）

## アジア

- 売上高（実績）
- 売上高（予想）
- 営業利益（実績、予想）



## 増減要因

### 【売上】

+ 東南アジアでFRが堅調

### 【営業利益】

▲ 中国、東南アジアともに販売管理費増加

[単位：百万円]

	2016/3 実績	2017/3 計画
営業 C F	8,465	9,070
(減価償却費)	(4,815)	(5,600)
投資 C F	△11,397	△11,600
財務 C F	1,381	1,700
現預金増減額	△2,210	△830
現預金期首残高	19,247	17,037
現預金期末残高	17,037	16,207

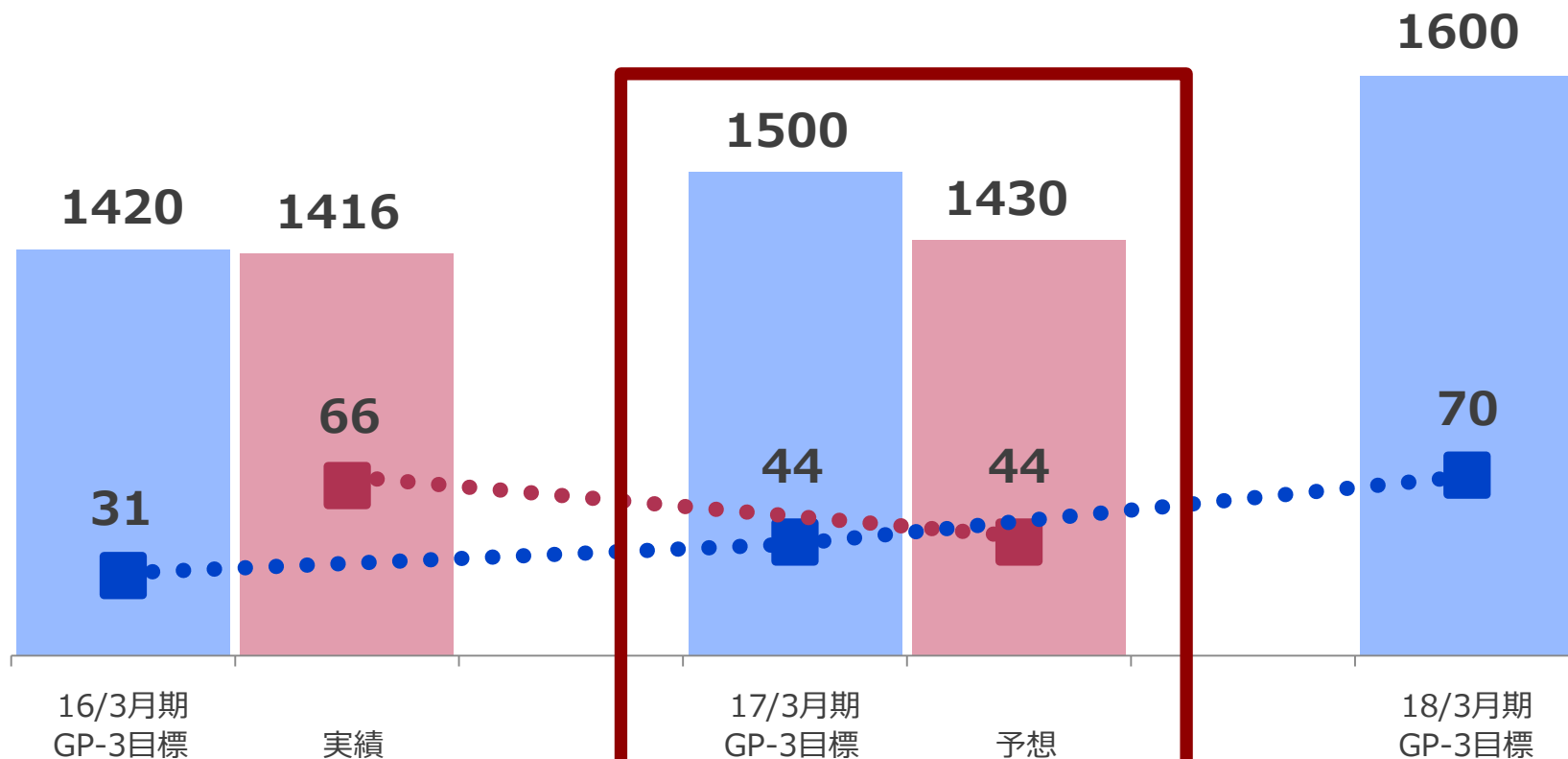
## 2017/3 主要投資計画

【日本】	
ファインケミカル製造設備	12億円
【米州】	
米国子会社にて生産設備増強	11億円
【欧州】	
ドイツ子会社にて工場拡張	30億円
【アジア】	
インド新工場建設	5億円
中国（上海）工場環境対策	3億円

※ 数値は全て円建て表記（億円）

## 業績予想

- 売上高（GP-3目標）
- 売上高（実績、予想）
- 営業利益（GP-3目標）
- 営業利益（実績、予想）





# Ⅲ. ファインケミカル事業について

---

# ファインケミカル事業

## ■ ファインケミカル事業本部：1993年～

- ◆ R&D：1985～1987年

- ◆ TRI：1987～1992年

## ■ コア技術

- ◆ 1980年～ 不斉合成技術の確立

  - 1983年 磐田工場にてメントールの製造を開始

- ◆ 2006年～ 均一性触媒の販売

- ◆ 2014年～ フロー連続技術による受託製造

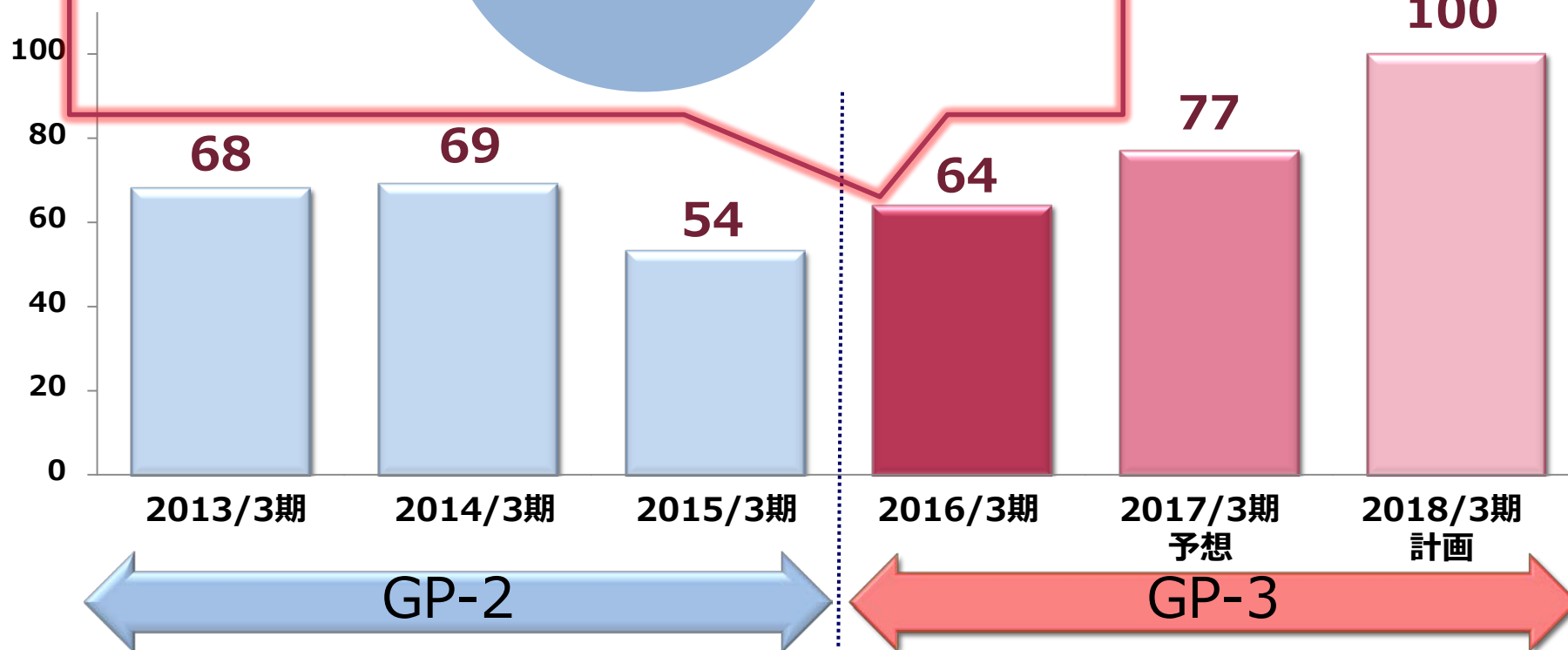
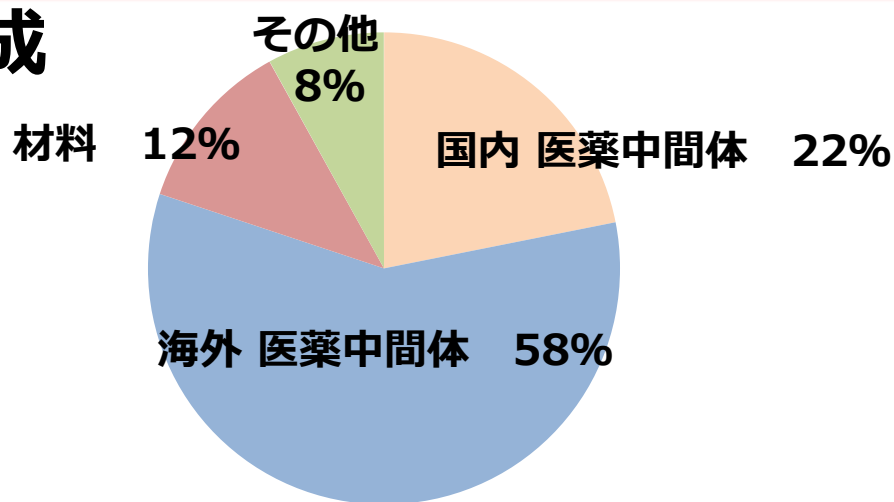
  - 受託製造における高レベルのプロセスバリデーションの知見、経験



# ファイナケミカル事業 中計GP-2・GP-3

単位：億円

## 売上構成



# フロー連続技術

## ■ フロー連続反応とは

- ◆ 合成反応の一形態
- ◆ 安全性、省力化による経済効率のみならず環境負荷軽減に優れた反応

## ■ FDAも推奨

- ◆ 50年来行われてきたバッチ反応法による医薬品合成は、今後25年でフロー連続反応法に替わるべきであると提唱

## ■ 当社のポジション

- ◆ フロー連続技術により、GMP品目3品目のプロセスバリデーションを実施
- ◆ フロー連続技術による工業実用化においては先行している

## IV. 設備投資ハイライト



# 海外拠点（世界28の国と地域）





高砂香料工業株式会社 磐田工場
フロー連続設備導入
フロー連続技術を用いた工業実業化

## Germany



Takasago Europe G.m.b.H.

ドイツ 工場拡張改修  
2016年工事完了予定

フレーバーの生産能力増強

## India



Takasago International  
(India) Pvt. Ltd.

インド 新工場 2016年稼働予定

当初生産能力 約2000トン/年

## Indonesia



PT. Takasago International  
Indonesia.

インドネシア 新工場建設用地取得  
建設計画策定中

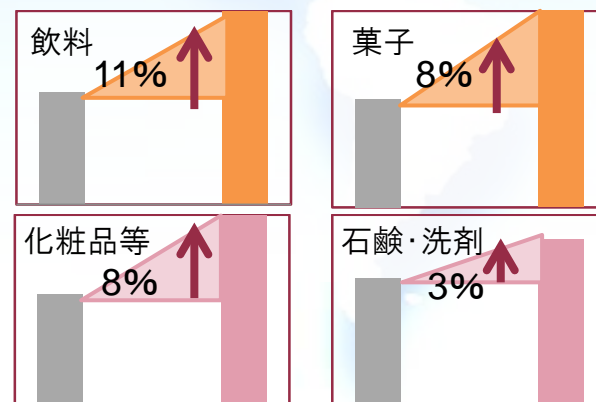
## インド新工場の概要

- 社名 : Takasago International (India) Pvt. Ltd.
- 所在地 : インド チェンナイ
- 内容 : フレーバー及びフレグランスの製造販売、研究開発、本社機能
- 投資額 : US\$ 10百万
- 稼働時期 : 2016年末予定

完成見取り図



2013-2018年インド市場予測（年平均成長率）



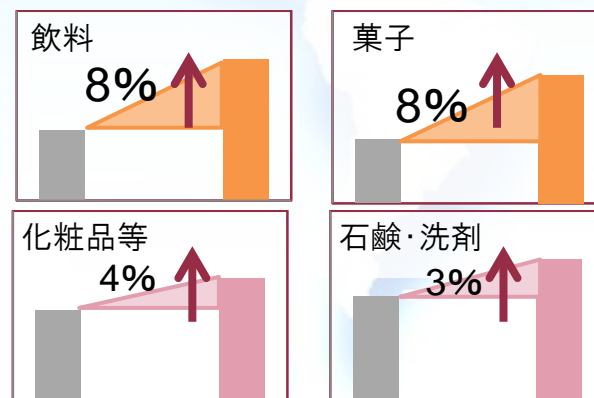
IAL Consultants (2014.11)  
Global Overview of the Flavours & Fragrances Market: Global Summary

## インドネシア投資の概要

社名 : PT. Takasago International Indonesia.  
 所在地 : インドネシア ブカシ県 GIIC工業団地  
 内容 : 工場用地取得  
 土地投資額 : US\$ 1.7百万  
 取得時期 : 2014年12月



2013-2018年インドネシア市場予測（年平均成長率）



IAL Consultants (2014.11)  
 Global Overview of the Flavours & Fragrances Market: Global Summary





## バニラフレーバーの安定供給を実現

原料豆から顧客へのお届けまで  
川上から川下までの商流を網羅

### Morocco

### Madagascar

### USA

Takasago Morocco  
(Societe Cananga S.A.R.L.)

Takasago Madagascar S.A

Centre Ingredient  
Technology, Inc.

**モロッコ 2012年12月買収**

**マダガスカル 2013年1月設立**

**アメリカ 2016年1月 買収**

バニラエキスを加工し、各拠点へ  
生産能力； 約150 トン/年

バニラ原料調達、エキス加工  
生産能力； 約300トン/年

天然香料の製造販売

※ 「La Vanille T®」 (ラ・バニユー・ティ®) は高砂香料工業株式会社の商標です

## 買収先の概要と目的

会社名	: Centre Ingredient Technology, Inc.
所在地	: 米国 ノースカロライナ州
事業内容	: 天然香料の製造販売
売上高	: 2,080千米ドル (2014年実績)
契約締結日	: 2016年1月19日

## &lt;背景&gt;

- 欧米を中心に天然原料への需要の増大
- 当社の発酵素材と同社の発酵製造技術との融合

## &lt;目的&gt;

- 発酵に関する技術・知見、工業化ノウハウの獲得
- グループ内における発酵素材の供給基地の確保
- 次世代新素材原料の開発拠点の獲得

USA



Centre Ingredient Technology, Inc.

アメリカ 2016年1月 買収

天然香料の製造販売

本日は、ありがとうございました。



※注意事項

本資料は、2016年5月24日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先：取締役管理本部長 笠松 弘典  
TEL: 03-5744-0523 FAX:03-5744-0512  
<http://www.takasago.com>  
E-mail:ir@takasago.com

